



社団法人 埼玉私保連

広報

No.115

H24. 10. 31

発行



「楽しいね 水遊び」

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

◆地区懇談会報告◆

東部地区



7月26日午後春日部市において開催されました。出席者は5名で、話題の中心は、「新システム」法案の行方でした。三党合意で市町村の責任は残ったものの、認定の長短は、子ども本位でなく、今の保育が壊され、ただの預かり託児になってしまいます。施設型給付になると、老朽園舎になっている社会福祉法人は、建替えの資金繰りが付かず、続けられないのでは、借金返済中の園は今後20年間に渡り返済し続けていけるのか

大変不安です。やはり廃案にするのが適当であろう、という話になりました。埼玉県保育所最低基準条例の意見集約では、今まで三団体で要望してきた事項を、盛り込んでほしいということになりました。特に3歳以上の人員配置規定は、要求どおりにしてほしい等、話は尽きず、またじっくり話せる場を設定したいと思います。

西部地区

7月17日(火)富士見市立ふじみ野交流センターにて、10園12名の参加者で西部地区懇談会を行いました。仲よし保育園長の水上克己先生から『3党合意による修正法案から見えてくる保育制度改革』・「子ども子育て支援法案」、「児童福祉法」、「認定こども園法」の修正について話していただき学習しました。質問や意見交流の中で、・児童福祉法24条が残ったことは良かったが区分認定が残るのは子どもの成長の妨げになる。・認定保育所や企業保育所が出てくる中で社会法人の保育所はどうなるのか、どんな役割を担っていくのか考えていかなくてはいけないのではないかと。・運営費は保障されるのか。など不安や疑問がだされました。最後に水上先生から今後、市町村が計画を審議会の中で決めていくのでここに我々の要望を出していくこと。各自治体でも市町村の責任を盛り込んでいく運動が必要であると話があり、参加者で今後も学習と我々の保育を守る運動が必要なことを確認し、懇談会は終わりました。



南部地区

7月30日(月)埼玉県私立保育園連盟事務局にて10名の参加者で南部地区懇談会が開かれました。新島副会長の開会の言葉、出席者の自己紹介に続き、水上先生により「3党合意による修正法案から見えてくる保育制度改革」と題した資料に基づき、修正法案に関する説明が行われました。説明後、



質疑応答に移り、「総合こども園」が廃止され、認定こども園の拡充という方向性が出されたが、3歳未満児の受け入れ義務はないので、待機児童対策にはなっていないのではないか。・施設整備費が無くなる心配がある。・修正法案の議論を含め、新システムの議論においては、子どもの目線からの議論が一切なされていないのではないか。・市町村の保育ニーズを調べるために「子ども子育て会議」（子ども子育て支援事業計画）

を設置することになっているが、北本市では、保育所を作りすぎたため公立も私立も定員割れの状況になっている。他市では新システム対策としてどのような対応を取っているのか。等の活発な意見交換がなされました。

北部地区

7月25日、寄居中央公民館にて懇談会が開かれ、行田、熊谷、深谷、本庄、寄居、児玉、長瀨、秩父、小鹿野の各市町村より、15保育園、16人が参加しました。各市町村で抱える問題点などを報告するとともに、それらに対する対策案や実施例が報告され、これからの運動では、市町村ごとに結束して、自治体に要求していくことの大切さも確認されました。意見集約では①受け持ち人数の見直し・・特に3歳児、4、5歳児、②障がい児補助金の増額、③施設整備費が今後も保障されるように、等の意見が出され、新システムについても、24条の抜け道についての指摘も資料で示され、本質的な所は変わっておらず、なんとか廃案にしていきたいと確認されました。

対県交渉

平成25年度 埼玉県保育三団体予算要望書提出

平成24年9月10日埼玉県保育三団体（埼玉県私立保育園連盟、埼玉県保育協議会、日本保育協会埼玉県支部）合同で「平成25年度埼玉県保育関係予算編成に対する要望書」を提出いたしました。今年度は1.保育人材の確保及び処遇改善について、2.施設整備費について、3.子どもへの処遇改善について、の特に重要な課題3点に絞り各団体から現状を訴え、強く要望をいたしました。県からは子育て支援課小島課長をはじめ5名の出席をいただきました。



要望では、保育士の職務が増大する中で、他業種との賃金格差から保育人材の流失に歯止めがかからない状況を訴え、県単での保育士処遇改善を強く求めました。施設整備では、埼玉県は全国に比べ耐震化率が大きく下回っている点を指摘、安心子ども基金の継続、新制度に移行後も現行の整備基準の維持、建築コストの高騰に連動した補助制度となるよう訴えました。子どもへの処遇改善では、県独自の「気になる子」への対策強化、アレルギー食への十分な対応が急務であることから該当人数での補助要件とするよう訴えました。

県からは財政的に厳しい中、保育関係予算は増えており、また、保育所の耐震問題については急務であるとの認識を示し、今後、この問題については急ぎ検討する必要があるとの見解が示されました。

施設訪問こんにちは

訪問先(富士見市)

けやきわかば保育園

園長 関根衣都美先生

川越街道と富士見川越道路には
さまれた丘陵地、住宅群に囲まれ
た緑地の中にけやきわかば保育園
はありました。園舎前の道路はつ
い最近できたばかりだそうです。
少し坂を登ると通りの激しい道路
があるのですが、保育園の周辺は
ススキが揺れ、季節の野菜が栽培
されている畑を臨めるとても静か
な場所です。

創設三十二年を迎える、社会福
祉法人みずほ愛育会けやき保育園、
子育て支援センター「けやきっ子」
に続き、三番目の施設として平成
二十三年四月、けやきわかば保育

園は誕生しました。
けやき保育園と同じく、「子ど
もの育つ力」を大切に育む保育に
取り組んでいます。

みんなの自慢、金メダル

玄関を入ると、今年、開催され
たロンドンオリンピック、レスリ
ング四八キロ級で金メダルに輝い
た小原日登美選手との交流風景が
テレビ画面に映し出されていていまし
た。富士見市在住の「小原選手を
祝う会」へ参加、会場まで歩く姿
やこどもたちが折った折り紙のメ
ダルを笑顔で受取っている様子等々
とても楽しそうな場面がいっぱい
です。我が子を授かったら、是非
ともけやきわかば保育園でお世話
になりたいとおっしゃっていたそ
うです。

「共育」の実践

○歳児室は、寝室・遊び場・食事
スペースと家具や遊具で仕切られ
ています。牛乳パック製のすべり
台や粉ミルクのスプーンを利用し
たガチャガチャ・手作りの抱き人
形等、保育者の愛情いっぱい、ど
れも力作揃いの手作り玩具達です。



一歳児の部屋とは隣り合わせ
トイレや水回りは共有スペース、
開口部も広くとても使いやすそ
うです。

こどもたちの興味を育てるため
どの部屋もコーナー別に遊びの
エリアが設定され、こどもたち
が自分の好きな場所を選び、落
ち着いて遊び過ごせるような空
間作りがなされていました。そ
うして、こどもの行動に寄り添う
ように保育者の姿がありました。

園庭に目を向けると、年齢別
のカラー帽子が色とりどりに散
らばり、皆、遊びに夢中です。
保育室に面したどろんこ段々の
お庭、園舎西側は竹馬広場、厨
房の脇の通路を抜けると草の原
っぱがあり、草花や虫たちとも
触れあえます。年少児は、年長
児の姿を見て真似っこしながら
遊びを学び、年長児は、自分た
ちで工夫し遊びを発展させてい

きます。そんな気持ちで育つ園
庭となっていました。園庭から
原っぱへ抜ける通路はさながら、
タイムトンネルのよう、少し背
伸びをした乳児グループの子
たちが競うように通り抜けてい
くのだそうです。異年齢児がオ
ープンスペースで過ごしている
からこそ育つドキドキワクワク
感を自然な形で演出していました。
よく見ると、遊具はほとんど
が廃物利用品、どんなものでも
遊具に変えてしまう想像力と創
造力に脱帽です。

園舎の一階は、玄関ホール右
手が○・一・二歳児のお部屋、左
手が厨房・事務室となっていまし
た。給食の時間が近づいてくる
と玄関ホールは、乳児グルー
プのランチルームに早変わりです。
年齢ごとに机・椅子が設置され、
エプロンが椅子の背に掛けられ





訪問した日のメニューは、「栄養きんぴら・南瓜のレモン煮・原米入りご飯・みそ汁」でした。毎日、厨房ではこどもたちの育ちを支え

月に一度のお楽しみ

ます。準備のできた子から食事量に合わせ、配膳されたお皿を持ち席につき、食事が始まります。まだ、遊び足りない子も美味しそうに食事をしている友だちを見て玩具の片づけを始める姿が……。こどもの心情を認め、自ら考え行動するまで待ち、それを見守る保育者の姿に感動しました。教育・養護両面より、こどもの興味はどこにあるのかを見極め、こども同士での育ち合いを見守り、成長を共に喜ぶ。「こどもも、親も、保育者も育つ」共育てがありました。

る美味しい給食が作られています。担当者の研修や給食室の清掃などの理由から月に1度だけ、お弁当の日を設けています。お母さんが腕をふるった、愛情たっぷりのお弁当、心なしか、ずっしり重たいそうです。

この日は、こどもたちにもお母さんにも特別な日となり、お天気が良い日は、リュックに水筒・おしぼり等を用意し、お散歩に出掛け、青空の下のお食事会になることも……。『美味しいね』『楽しいね』の共感があふれる時間になります。暑い夏の間、お弁当はお休みとなるそうです。

幼児グループになると、一駅分の距離を歩き、けやき保育園まで出掛け、両園の交流会を楽しみ、電車に乗って帰園することもあるのだそうです。

異年齢交流の中で育つ

2階は、幼児グループのエリアです。

まず、「声の物差し」の張り紙が目に見え込んでいました。ネズミさんの声・ライオンさんの声と動物のイメージをリンクさせ、声の大きさを調節することを示していました。

また、夏の間行われたプール遊びは習熟度に合わせたグループで行われます。このグループはイルカ・クジラとネーミングされ、選択はこどもたち自身。無理なく水遊びを楽しめるように工夫されていました。その日の気分によりグループが変わることもたびたびと

か、無理をせず、水に慣れ、親しみを覚えて欲しいという保育者の思いが伝わりますね。

給食の時間、三・五歳の縦割りグループで配膳が進められます。お当番が保育士と一緒に配膳を手伝い、準備のできた子からトレイを持ち、ご飯・汁もの・おかずを載せて自分の給食を運びます。どの子もバランスよく、溢さず上手に運んでいました。

実は、お食事をこどもたちと一緒にご馳走になったのですが、みんなお話大好き、食事をしながら会話が弾みました。また、みんな箸の使い方が上手なことにも驚かされました。

食べ終わると、それぞれに片づけをして歯磨きを済ませ、次の行動へと移っていきます。

生活の場面々々で、自ら気付き、自ら行動する素地作りのため、様々な取り組みがなされていました。



異年齢縦割り保育だからこそ育まれてゆくものを感じました。

優しい配慮がいっぱい

初年度、皆さんのお顔を早く覚えていたいと工夫をした乳児グループでの家族写真の表示、好評につき今年も継続しているそうです。お父さんやお母さん家族と一緒に写真、職員や保護者の方同士の親密度を深めるのにたいへん役に立っていました。

荷物が多い乳児クラスのテラスには、保護者の方々が共用できる荷物置きロッカーがありました。都心まで通勤される保護者の方へ優しい配慮を感じました。その一隅には、クラス別に避難用の靴が用意され、災害時、安全に避難できる体制が整えられていました。

開園が、東日本大震災の直後だったため防災関係には神経を使われたとお伺いしました。

「開園より、1年半。まだまだこれからです。」と熱く語って下さった関根園長先生。

温かい愛情のこもった保育の中で、こどもたちは「けやきの木」のようにすくすくのび、かわいらしい若葉を広げ繁らせていくことでしょう。

残暑の残る中、お時間を割いていただいたことに感謝申し上げます。保育園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

研修会報告

テーマ：子ども・子育て支援法についての
「問題点と改善点」を探る緊急研修会

講師：大井琢弁護士

(日本弁護士会貧困問題対策本部・女性と子どもの貧困部会所属)



平成24年7月23日(月)さいたま市民会館おおみやにおいて、関東ブロック子ども子育て支援法についての「問題点と改善点」を探る緊急研修会が開催されました。埼玉県内をはじめ群馬県や栃木県など関東各地から、また、遠くは山口県から、総勢約120名にもものぼる法案の行方を心配する保育関係者が集う研修会となりました。

国会では6/15社会保障・税の一体改革関連法案について3党合意がなされ、同時に子ども・子育て新システム関連3法案についても大幅な修正がされました。法案が修正されたことは私たちの運動での成果となりましたが、修正法案の中身については複雑で心配される部分も多いことから、専門家である大井琢弁護士をお呼びし「法案の中身を読み解く」ことを目的とした内容となりました。

修正法案では、総合こども園法を撤回し現行の認定こども園を推進するとしたことや、保育所運営費や補助金などの個人給付化方式への転換(施設型給付)。保育時間の認定区分(長時間・短時間)の問題や市町村の保育実施義務がどのように変わるか(児童福祉法24条1項についての問題)や株式会社参入問題から補助金の使途制限の問題等々、保育所がどの様になっていくのか、また、どのように改正していこうとしているかなどについて2時間半の研修と質疑応答が行われました。まだまだ不明な点があるものの、今後、参議院での審議に向けてどのように現場の声を伝えていくかを学べる手がかりとなる研修会となりました。



地域防災協定実践例報告



町内会と保育園の合同防災訓練(東松山市・仲よし保育園)

十数年前から町内のお祭りの時やちょっとした町内会行事の際には保育園の駐車場を使ってもらっていました。5年程前からは町内の防災訓練会場としても提供していました。

町内会長さんが園にみえた際に、監査自己点検表に「非常時の際の地域との協力協定」という項目があることをお話したこともあったのですが具体化には至らずにきました。

ここにきて首都圏巨大地震がいつ起きてもおかしくないと伝えられるようになり、町内会長さんの方から今年は町内会と保育園との合同訓練を試みたいと申し出てくれました。

早速、二人揃って消防本部に出向き9月1日(土)の合同訓練についての協力依頼と打ち合わせを行いました。消防本部としても初の試みということでした。

当日は、町内会から40数名、保育園から6名の職員(土曜出勤)が出席し3グループに分かれて午前9時半から12時までローテーションで訓練を行いました。保育園の駐車場で消火器を使った消火訓練や起震車による震度6強の体験を行い、町内の集会所ではAEDを使った救助訓練を行いました。実地訓練の後、保育園のホールに全員集まって私(園長)の話を聞いて頂きました。私からは、地震の規模や火災等被害の状況次第では保育園の職員だけでは子どもたちを安全に避難誘導できない場合もある。そうした時には、地域の皆さんに是非ともお手伝いを頂きたいとお願いしました。また、阪神大震災の時に神戸のある保育園が地域で果たした実例を紹介しました。保育園には水や食料等の備蓄があること、厨房設備が整っていること、AEDや非常時優先電話などを生かした救助連絡等、地域の人たちのために役立つこともできるということを話しました。

その後、消防署の防災担当課長からの話しと防災映画を見て閉会となりました。

理事長・園長研修会案内

日 時:平成25年2月25日(月) 13:30 ~ 17:00

会 場:大宮ソニックシティー602会議室

講 師:村井 美紀氏(東京国際大学准教授)

テーマ:仮題「保育園で起きる保護者とのトラブルをどうとらえるか」

◆◆ 編集後記 ◆◆

夏がいつまでも退散せず、暑い日が続いたからでしょうか。お彼岸を過ぎ、十月の声を聞き、彼岸花が満開となりました。畦道に赤い花の群れ、その中に白花彼岸花を見つけました。赤色の中の白、1輪がとても際立って綺麗でした。彼岸花は別名、「葉見ず花見ず」と呼ばれるそうです。葉のある時は花はなし、花のある時葉はなしの意とか…。(T・M)

プロ野球新人ドラフト会議の時期です。人の進路がクジ(抽選)で決まるというのも考えてみるとおもしろいですね(他人事ですみません)。ところで巨人の大エース・斎藤雅樹はヤクルト・荒木大輔のハズレ1位でした。何が当たりで何がハズレか、世の中わかりませんね。(S・K)

秋が深まり、子ども達と公園へ行くと、クヌギ、シイ、カシの実等が落ちています。子ども達はそれらを夢中で集めますが、特に用途は無いようです。品種や鮮度にこだわることなく、とにかく集めること自体が目的となり、ポケットや袋に目いっぱい詰め込みます。人が未だ狩猟・採集で糧を得ていた時代の名残なのでは、と考える人も多いようです。せっかくなので今度集めた各種どんぐりを調理して味を確かめてみようと思います。(M・K)

事務局 埼玉県私立保育園連盟 〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048(772)8623 FAX 048(772)8635

保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

全私保連
保険制度

園児総合保障
共済制度

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

